

ホームページのご紹介

「羽田空港BIG BIRD」ホームページ

<http://www.tokyo-airport-bldg.co.jp/>



ショッピングサイト「羽田空港セレクション」

<http://www.bigbird-shopping.com/>



株主メモ

事業年度	4月1日から翌年の3月31日まで	
定時株主総会	毎年6月に開催いたします。	
基準日	定時株主総会の議決権	3月31日
	期末配当金	3月31日
	中間配当金	9月30日
公告掲載新聞	東京都において発行する日本経済新聞	

株主名簿管理人	〒103-8670 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱所	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 TEL:0120-288-324(フリーダイヤル)

〒144-0041 東京都大田区羽田空港三丁目3番2号(東京国際空港内)
TEL:03-5757-8000
<http://www.tokyo-airport-bldg.co.jp/>

 日本空港ビルディング株式会社
Japan Airport Terminal Co., Ltd.

株主・投資家の皆さまへ

株主通信

第66期
2009年4月1日～
2010年3月31日

2010年10月、羽田が生まれ変わります!!

特集

進化する羽田空港

羽田空港再拡張事業の取り組みとその進捗

 日本空港ビルディング株式会社
証券コード:9706



羽田は 生まれ変わります。

代表取締役社長

鷹城 勲



「羽田空港のさらなる容量拡大・国際化と
新たな環境変化に対する着実な対応」を目指します。

株主の皆さまにおかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

当社第66期の決算(2009年4月1日から2010年3月31日まで)のご報告をするにあたり、ごあいさつ申し上げます。

当社が事業を展開しております航空業界におきましては、景気の低迷などの影響を受け、大幅に減少した国内線・国際線航空旅客数は、下期以降、景気の緩やかな持ち直し等により、回復傾向に転じております。特に、国際線航空旅客数は、出国日本人数および中国人・韓国人を中心とした訪日外国人旅客数の回復で、その傾向を強めております。

このような状況の下、当社グループは、引き続き旅客ターミナルビルにおける安全対策強化に全力を傾注するとともに、顧客第一主義の徹底を図り、全社を挙げて一層のサービス向上に努めてまいりました。また、旅客ターミナルビル運営の

効率化に取り組み、業務の活性化と経営の合理化を図り、社業発展と経営基盤の強化に努めてまいりました。

当社グループは、企業価値の向上を目的として事業戦略、財務戦略、組織戦略の3戦略を推進しており、事業面では、2010年10月の羽田国際化・再拡張に備え、新国際線旅客ターミナルビルにおける新たな事業展開に向けた取り組みや、第2旅客ターミナルビル増築工事等を推進しております。財務面では、2009年7月に株式公開買付により、約2,000万株の自己株式を取得し、9月には株主利益の増加を図ることを目的として、取得株式の大半を消却いたしました。組織面では、監督と執行の分離および意思決定の迅速化を図ることを目的として執行役員制度を導入するとともに、グループ全体のガバナンスの向上・強化を目指した子会社の一部統合などを、実施いたしました。

また、CSR(企業の社会的責任)の一環として、太陽光発電システムを第1、第2旅客ターミナルビルに設置するなど、環境問題への対応に積極的に取り組んでまいりました。さらに、最先端技術をパブリックアートに用いた『空気の港』展の開催等による旅客ターミナルビルの一層の付加価値向上にも鋭意取り組みました。

2009年度で終了した、中期経営計画(2007年度から2009年度までの3年間)につきましては、グループ一丸となって諸施策に取り組み、計画した施策項目については、概ね実現いたしました。2008年度後半以降、世界的な景気後退に加え、新型インフルエンザの感染拡大による影響等の事業環境変化により、目標値の達成には至りませんでした。

しかしながら、2010年10月以降は羽田空港が再拡張され、D滑走路の供用とともに国内線および国際線の発着回数

それぞれ増加し、国際線についてはアジア、北米、欧州の13の国々や地域との定期路線が設定される予定です。

また、2010年度は、新たな中期経営計画がスタートする年でもあり、羽田空港のさらなる容量拡大・国際化や航空業界に関わる新たな環境変化が想定されるため、こうした状況を的確に把握した上で、収益基盤の拡大と事業運営の効率化を進めます。

株主の皆さまにおかれましても、生まれ変わる羽田空港に足を運んでいただき、進化・発展を遂げる羽田空港を是非とも体感していただきたく存じます。今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2010年6月

当社グループは、2010年度から2012年度までの3年間を対象とした、中期経営計画を新たに策定しました。

新中期経営計画のテーマと骨子

テーマ

羽田空港のさらなる容量拡大・国際化と新たな環境変化に対する着実な対応



骨子

新国際線旅客ターミナル開業・運営を確実に遂行

第1、第2ビル整備計画等 各プロジェクトの実施・推進

新たな収益基盤の確保、コスト削減や効率化の徹底

取り組み内容

新中期経営計画では、「新たな環境変化へ対応するための4つの柱」として、以下の取り組みを推進してまいります。

新たな環境変化へ対応するための4つの柱

事業戦略

- 全社プロジェクトの推進：①新国際線旅客ターミナル開業に向けての取り組み
②第2旅客ターミナルビル増築・整備計画の推進
③第1旅客ターミナルビル・リニューアル計画の推進
- 各事業収益基盤の強化：環境変化への着実な対応、外部展開を含む売上拡大等

組織戦略

- 新国際線旅客ターミナル開業に対応した組織体制整備
- 本社・グループ各社の総務・経理事務の一括処理による全社的事務効率化

財務戦略

- 健全な財務体質の維持：自己資本比率50%以上を継続
- 株主還元：経営指標の適切な水準を確保しつつ安定配当を維持

社会的責任

- 東京都改正環境条例への対応：CO₂6%削減義務に対する対策実施
- 危機管理体制のさらなる充実：各種訓練の実施、新国際線旅客ターミナル、当局との連携強化

羽田空港では、容量拡大・国際化や航空業界等に関する新たな環境変化に対応しながら、本年10月供用の新国際線旅客ターミナルの開業・運営、および第1・第2旅客ターミナルビルの整備計画等、全社プロジェクトの成功に万全を期すことが本中期経営計画の重要課題となります。さらに、2013年度以降に想定される展開ステージに着実に対応するための収益基盤の拡大と事業運営の効率化を進めてまいります。また、航空会社との協力・協調関係を一層強め、航空業界と一体となって首都圏空港の新たな発展に寄与してまいります。

収支計画と経営目標

収支計画に関する目標は次のとおりです。

(単位：億円)

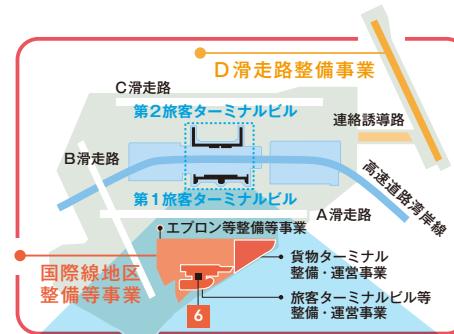
	2009年度 (実績)	2010年度 (目標)	2011年度 (目標)	2012年度 (目標)
営業収益	1,210	1,334	1,474	1,521
施設管理運営業	378	408	440	442
物品販売業	694	770	851	887
飲食業	136	156	183	192
営業利益	51	42	42	63
経常利益	49	30	22	51
当期純利益	25	13	7	25

当社グループは、投下資本に対するリターンの最大化を図り株主価値の向上を意識した経営を徹底し、ROA、ROEを重要な経営指標として、その向上に取り組みます。

進化する羽田空港

羽田空港再拡張事業の取り組みとその進捗

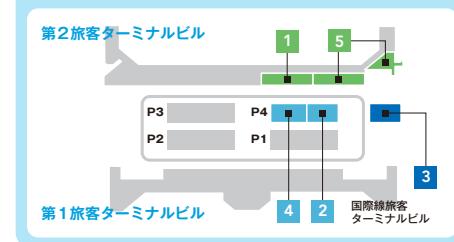
羽田空港は、首都圏における将来の航空需要の増大に対応するための再拡張が、進められています。再拡張事業は、国による「D滑走路整備事業」のほか、旅客ターミナルビル等整備・運営事業、貨物ターミナル整備・運営事業、エプロン等整備等事業を大きな柱としております。



再拡張事業の目的

発着能力の増強 (1.3倍) (昼間時間帯)
 30.3万回/年 → 40.7万回/年
 31便/時間 → 40便/時間

- 発着容量の制約の解消
- 利用者の利便性の向上
- 将来の国内航空需要対応と国際線定期便の受け入れを目指す

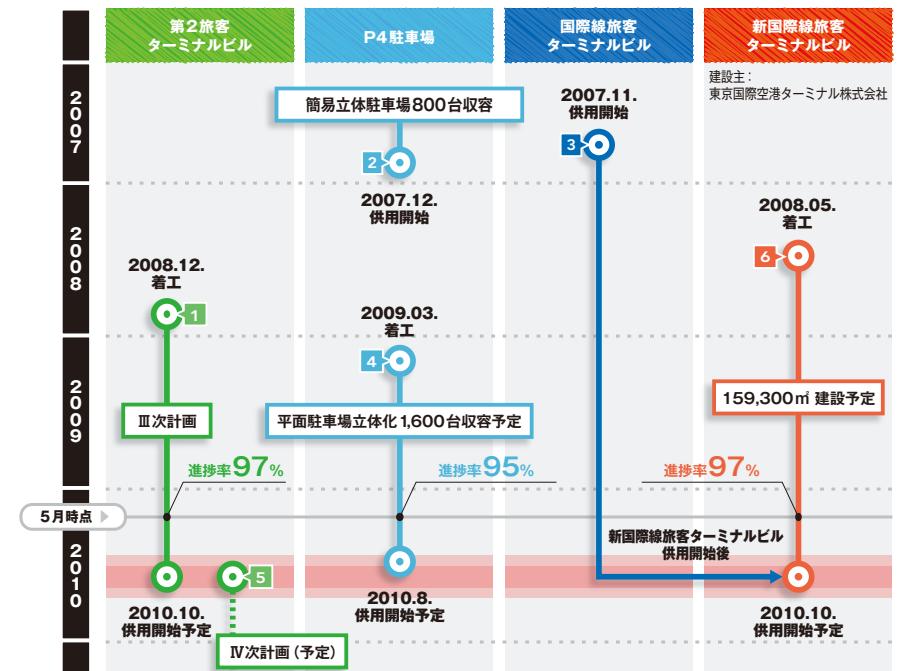


2010年10月、羽田は生まれ変わります。

D滑走路の供用により、年間発着能力が40.7万回と従来の1.3倍に増強され、国際・国内ハブ機能を有する24時間国際拠点空港化が進められます。国内線も増便され首都圏の利用者のみならず、羽田空港との路線を持つ各地域の利用者の利便性も向上します。

当社はこうした環境変化をビジネスチャンスと捉え、以下の取り組みを推進しており、2010年からは第1旅客ターミナルビルのリニューアルにも取り組むこととしています。

当社の取り組みとその進捗



羽田空港 第2旅客ターミナルビルの増築



本館南側増築工事風景 (2010年5月現在)

南ピア(5スポット)増築工事に続き、第2旅客ターミナルビル本館南側の増築工事を現在、実施中です。この工事によって、南ピアまでの距離が短縮されることに加え、出発保安検査場、到着手荷物ターンテーブルが増設されることにより、お客さまにとっての利便性・快適性・機能性のさらなる向上が図られます。

また、省エネ対策、空港での滞在時間を有効に活用いただくた

めの空間演出、商業施設の多様化と充実、旅客誘導の改善、ロビーなどの共用スペースの快適性向上など、積極的に取り組んでおります。

2010年10月のD滑走路の供用開始に合わせて現在、鋭意工事を推進しております。



出発ロビーイメージ



展望デッキイメージ

P4駐車場 立体化

第2旅客ターミナルビル本館南側の増築工事に合わせ、同ビルの前面に位置するP4平面駐車場の立体化工事を現在、実施中です。完成後には、他の立体駐車場と同様、第2旅客ターミナルビル本館3階と連絡橋で結ばれます。

新たなサービスとして、ペットホテル、個室車室や電気自動車用の充電スタンドの設置、混雑時期の予約駐車場の導入など、さら

なる利便性の向上を図ります。将来的にはP4駐車場の拡張も想定しており、上層部に2フロアの積み増しが可能な設計としているほか、屋上部には太陽光発電パネルを設置し、照明用電力として利用するなど、省エネ対策も推進中です。混雑が予想される2010年8月の供用開始に向けて現在、鋭意工事を推進しております。



P4立体駐車場工事風景 (2010年5月現在)



完成イメージ

羽田空港 第1旅客ターミナルビルのリニューアル

2010年10月の第2旅客ターミナルビル本館増築部分の供用開始に伴い、第1旅客ターミナルビルにおいても同等のサービスレベルの実現をするため、経年劣化対策を中心に旅客エリアの環境改善を図るとともに、店舗をリニューアルし、商業施設の活性化を図ります。総投資額は70億円で工事期間は2011年度末までを予定しております。



出発ロビーイメージ



ゲートラウンジイメージ

新国際線 旅客ターミナルビル

2010年10月の供用開始に向けて、地上5階、延床面積約159,300㎡の新国際線旅客ターミナルビルの建設は、当社が中核となり航空会社等と出資設立した「東京国際空港ターミナル株式会社」により、順調に進められております。

同社は、旅客ターミナルビル供用後のターミナル管理・運営を主な事業としており、当社は、新国際線旅客ターミナルの運営

に係る施設維持管理、商業店舗運営・企画、旅客サービス等の基幹業務を一括受託し、併せて物販・飲食店、旅行業等の事業展開も行います。ターミナル供用後の国際線・国内線の乗り継ぎについては、現行のターミナル間の無料連絡バスに加え、東京モノレールおよび京浜急行電鉄に無料で乗車できる計画を進めております。



新国際線旅客ターミナルビル(2010年5月現在)



完成イメージ

日本空港ビルディング株式会社

34.0%出資
(当社の持分法適用関連会社)

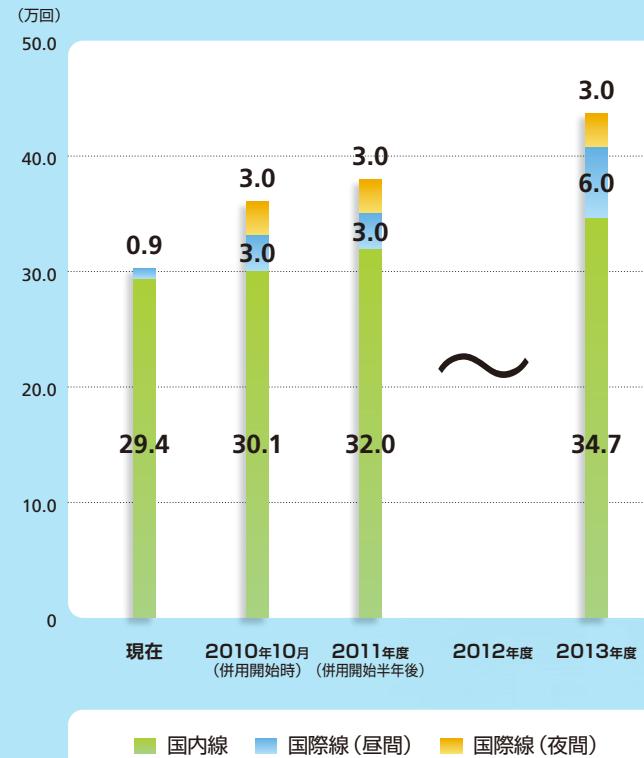
東京国際空港ターミナル株式会社

東京国際空港ターミナル株式会社の概要

設立 2006年6月20日
 資本金 45億円
 代表者 代表取締役社長 霜田 明彦
 住所 東京都千代田区
 事業概要 東京国際空港国際線地区旅客ターミナルビル等
 整備・運営事業

D滑走路供用開始後の羽田空港の発着枠増加見込み

羽田空港においては、2013年度までに容量拡大が進められ、それ以降もさらなる拡大が想定されます。



現在 → 2013年度

国内線 約5.3万回増加
(1日当たり約70往復便)

国際線(昼間) 約6.0万回増加
(1日当たり約80往復便)

国際線(夜間) 約3.0万回増加
(1日当たり約40往復便)

就航予定都市 (13の国・地域)

中国(交渉中)、韓国、台湾、香港、シンガポール、マレーシア、タイ、フランス、イギリス、ドイツ、オランダ、カナダ、アメリカ

出典:国土交通省「羽田空港発着枠の配分基準検討懇談会09.06」「成長戦略会議資料10.04」より推計

当社では、地球規模で広がる温暖化を防止するための取り組みを実施しております。

太陽光発電システム導入

地球温暖化防止対策が世界中で要求される中、極めて公共性の高い羽田空港旅客ターミナルビルについても、CO₂を排出しない自然エネルギーを活用することが社会的使命として求められております。

当社の取り組む温室効果ガス削減策の一環として、自然エネルギーの中で注目度の高い太陽光発電システムの設置を、2008年より検討してまいりましたが、2009年11月よりその設置工事が始まりました。

第1旅客ターミナルビルの屋上4カ所と第2旅客ター

ミナルビルの屋上2カ所で、2010年1月15日に発電システムの設置工事が完了し、同年3月から供用を開始しました。同年9月には、P4駐車場の屋上1カ所で、稼働を予定しております。

設置総面積は10,120㎡、総発電容量は1,240kWhとなります。

この数値は国内の空港ターミナルビルではNo.1の規模で、年間439トンのCO₂削減が可能となります。



太陽光パネル

羽田空港でのエリアワンセグ放送サービスの
実用化に向けて取り組んでおります。

エリアワンセグ放送サービス

例えば、現状のワンセグチャンネルでは
見ることができないコンテンツも…



サービスエリアに入ると
見ることが可能となります。



当社では、羽田空港ご利用のお客さまに対するサービス向上を目的に、ICT技術(*)を利用する総務省の「ユビキタス特区」事業に参画し、ワンセグ技術を用いた情報配信サービスの開発・実証実験を、福岡空港ビルディング株式会社との連携で実施しました。

このサービスは、空港を利用する旅行者等を対象として、エリア限定型ワンセグ放送技術により、空港内の特定狭域エリアにおいて、フライト案内、アクセス案内などの空港関連情報、お土産・レストラン情報、周辺観光情報など、エリア・視聴者の特性に合わせたコンテンツを配信する新しいサービスです。今後は新国際線旅客ターミナルビルも視野に入れたサービスコンテンツの内容検討、放送技術のさらなる開発等に取り組む、実用化に向けた活動をいたします。

* Information and Communication Technologyの略で、情報(information)や通信(communication)に関する技術の総称。

■ 羽田空港での機内食供給事業の展開

D滑走路の供用に合わせ、2010年10月から羽田空港に国際線定期便が就航することに伴い、当社グループ企業がこれまで成田空港において展開してきた機内食供給事業を、羽田空港でも展開するため、新たに機内食製造工場を建設します。

当社グループ企業は、2010年に入り、従来からの顧客航空会社に加え、成田空港に就航したエミレーツ航空、カタール航空との間で、新たな機内食供給契約を締結しました。今回の工場建設を契機に、さらなる顧客企業の獲得を目指します。



機内食製造風景



機内食搭載風景

■ お台場「Giftrip (ギフトリップ) by Japan Duty Free」がリニューアルオープン

アクアシティお台場4階の「Giftrip by Japan Duty Free」が2009年12月5日にリニューアルオープンしました。

従来は訪日旅行者をターゲットにしたお土産ショップでしたが、今回のリニューアルで「TOKYO OMIYAGE SELECTION」のコンセプトでお台場観光を楽しむカップル、修学旅行の学生まで幅広いお客さまに向けた「東京土産」のお店として生まれ変わりました。

店内は家電コーナーはもちろんのこと、人気のキャラクターグッズや化粧品、東京土産の食品コーナーも充実しております。



■ 「全国うまいものお取り寄せ物産展」開催

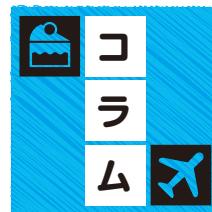
2010年3月24日から3月30日の期間、第1旅客ターミナルビル6階のギャラクシーホールで、羽田空港初となる「全国うまいものお取り寄せ物産展」を開催しました。

飛行機が見える空港ならではのロケーションで開催された物産展は、北は北海道から南は鹿児島まで、人気のスイーツや各地を代表するお弁当やお惣菜など、当該期間のみ販売する限定商品を数多く取り揃えました。

この物産展は、テレビニュースなどを利用し、集客に努めた結果、羽田空港を利用されるお客さまだけでなく、地域住民の方々にも、空港が身近な存在であることを認識していただく良い機会となりました。



2010年6月1日よりスタートした「羽田スタースイーツ」第4弾



2008年12月にオープンした「羽田スタースイーツ」は、多くの皆さまからご好評をいただき、2010年6月1日に第4弾をスタートさせることができました。「羽田スタースイーツ」は“スターになるスイーツ”を全国、世界に広めていこうというコンセプトのもとに、厳選されたブランドが次々登場するスイーツのセレクトショップで、今回の第4弾は以下の4ブランドが羽田空港に初登場し、多くの皆さまにご満足いただいております。

御門屋

東京・目黒の「揚げ菓子」専門店。一番人気の「揚げまんじゅう」は独自にブレンドした油で揚げ、香ばしい生地とまろやかな小豆のこし餡が醸し出す風味豊かな逸品。国内産最高級もち米で調製した「揚げもち」「おかき一客」もあります。



代表商品：揚げまんじゅう

タントマリー

タントマリーは、東京丸の内のおアソビ店を拠点にオリジナル商品を日々提供しています。今回、ノルマンディー産のAOCカマンベールチーズを贅沢に使用した「カマンベールチーズケーキ」、また、空港土産向けの新商品「カマンベールチーズスフレ」も展開します。



代表商品：カマンベールチーズスフレ

旬風 一期一会

和のこころを持った洋菓子の世界観「和魂洋才」、『旬』の風が舞う新作スイーツ。注目の「室町半熟かすてら」は一口食べたらくせになる新食感。中心の半熟状のカステラは、中かたろとろ〜と蜜のような表情を見せます。



代表商品：室町半熟かすてら

モンシュシュ ~モンシュシュスール~

ビジネス街—大阪・堂島に生まれたモンシュシュは、堂島ロールやバラ型のフィナンシェなど、かわいくおいしいスイーツがたくさん並び、人気のパティスリーショップ。そんなモンシュシュと、東京育ちのポップでキュートな姉妹店ベビーモンシュシュが、このたび初めてコラボレーションしたモンシュシュ~モンシュシュスール~が羽田空港に登場します。



代表商品：堂島ロール

「羽田スタースイーツ」第3弾 (2009年12月1日~2010年5月31日)

第3弾では、以下の4ブランドが登場しました。

ファクトリー シン



代表商品：スイートベタル フロマージュ

ハートブレッド アンティーク



代表商品：天使のチョコリング

新杵堂



代表商品：スーパースターロール

越前海鮮倶楽部



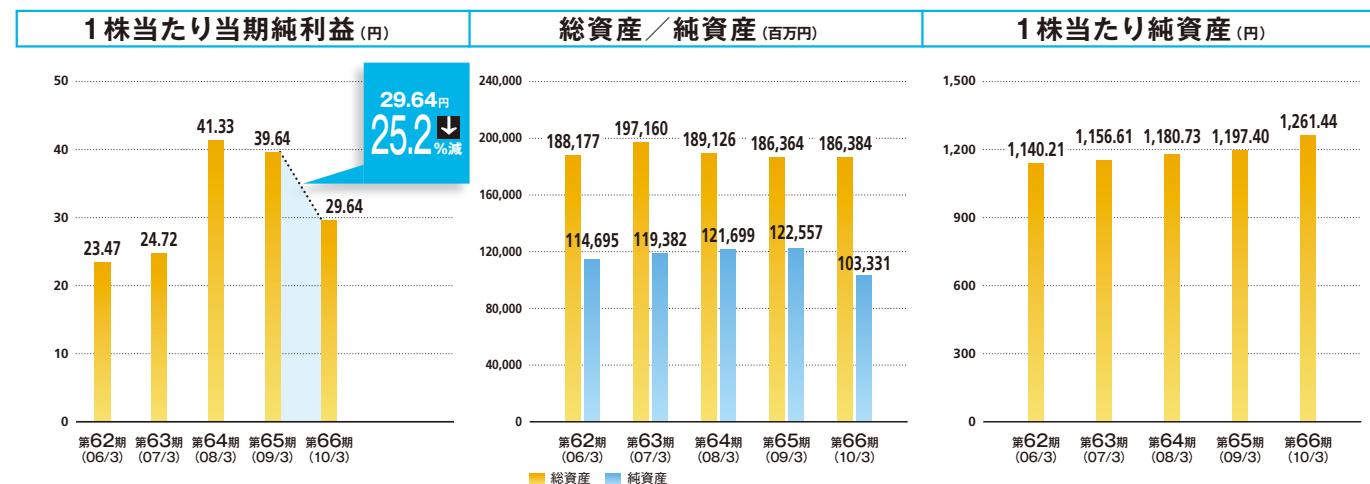
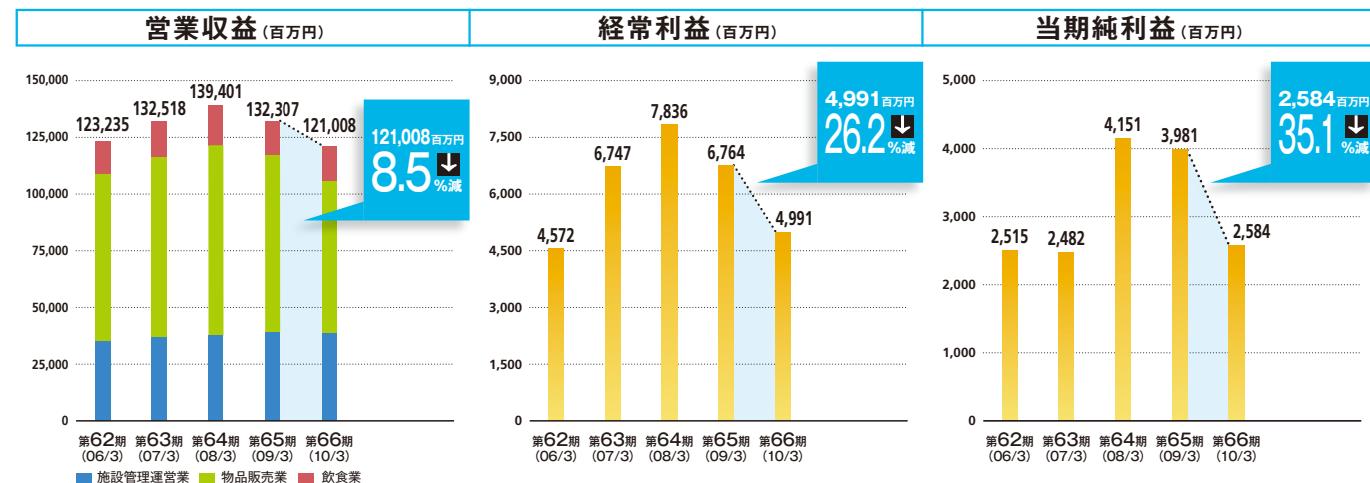
代表商品：越前海鮮煎餅

連結財務ハイライト

Consolidated Financial Highlights

決算のポイント

厳しい経営環境の下、営業収益は前期比8.5%減の1,210億円、
経常利益は前期比26.2%減の49億円、
当期純利益は前期比35.1%減の25億円となりました。



連結財務諸表

Consolidated Financial Statements

(単位：百万円)

	前期 2009年3月31日現在	当期 2010年3月31日現在
流動資産	30,274	28,602
固定資産	156,090	157,781
1 有形固定資産	134,764	133,927
無形固定資産	616	1,045
投資その他の資産	20,709	22,809
資産合計	186,364	186,384
流動負債	25,665	26,486
固定負債	38,141	56,567
2 負債合計	63,807	83,053
株主資本	119,330	101,596
評価・換算差額等	950	△ 193
少数株主持分	2,276	1,927
純資産合計	122,557	103,331
負債及び純資産合計	186,364	186,384

(単位：百万円)

	前期 自2009年4月1日 至2009年3月31日	当期 自2009年4月1日 至2010年3月31日
3 営業収益	132,307	121,008
営業総利益	67,193	63,078
販売費及び一般管理費	60,795	57,971
4 営業利益	6,397	5,107
営業外収益	1,372	1,380
営業外費用	1,005	1,495
経常利益	6,764	4,991
特別利益	705	14
特別損失	321	542
税金等調整前当期純利益	7,148	4,464
法人税、住民税及び事業税	3,922	2,506
法人税等調整額	△ 806	△ 591
少数株主利益(△は損失)	49	△ 35
当期純利益	3,981	2,584

(単位：百万円)

	前期 自2009年4月1日 至2009年3月31日	当期 自2009年4月1日 至2010年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	17,164	14,187
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 17,208	△ 13,741
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 352	511
現金及び現金同等物の増減額	△ 395	960
現金及び現金同等物の期首残高	16,088	15,693
現金及び現金同等物の期末残高	15,693	16,653

詳細な財務情報は、当社ホームページ「IR情報」をご覧ください

<http://www.tokyo-airport-bldg.co.jp/company/ir/>

- 1 有形固定資産／建設仮勘定は、羽田空港第2旅客ターミナルビル増築工事等により、前期末比83億円増加しましたが、減価償却費の逓減等により、建物及び構築物等の償却資産は、前期比91億円の減少となりました。これらの結果、当期末の有形固定資産は、前期末比8億円減の1,339億円となりました。
- 2 負債合計／短期借入金および長期借入金が増加したことなどにより、前期比192億円増加し、830億円となりました。

- 3 営業収益／下期の景気は緩やかな回復が見られたものの、通期では景気の低迷や新型インフルエンザ等の影響、国際線・国内線航空旅客数の大幅減少などにより、営業収益は、前期比8.5%減の1,210億円となりました。
- 4 営業利益／減価償却費等の低下に伴い、販売費及び一般管理費は減少したものの、それを上回る営業収益の落ち込みなどの影響により、営業利益は前期比20.2%減の51億円となりました。

事業別概況

Segment Information

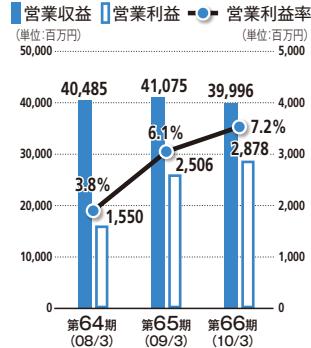
施設管理運営業

家賃収入は、羽田空港国内線旅客ターミナルビルにおいて、テナント店舗の歩合家賃および航空会社用事務室の貸室家賃が減少したこと等により、前年を下回りました。

施設利用料収入は、羽田空港旅客ターミナルビルにおいて、昨年10月からの羽田-北京間国際旅客チャーター便就航に伴い国際線航空旅客数は増加いたしました。国内線航空旅客数の減少等により、前年を下回りました。

その他の収入は、請負工事収入の減少や駐車場利用台数の減少等により、前年を下回りました。

その結果、施設管理運営業の営業収益は 399億9千6百万円(前期比2.6%減)、営業利益は、減価償却費の逓減および水道光熱費の減少等により28億7千8百万円(前期比14.9%増)となりました。



物品販売業

国内線売店につきましては、厳選されたスイーツのセレクトショップ「羽田スタースイーツ」での新規ブランド商品の導入や話題性のある映画とのコラボレーションによる羽田空港限定商品などのオリジナルブランドの開発、さらに新商品や季節感のある商品の積極的な催事販売等で販売促進の強化を図りました。また、インターネット上のショッピングサイトのリニューアルにより収益力の向上に努めましたが、国内線航空旅客数減少等の影響を受け、売上は前年を下回りました。

国際線売店につきましては、訪日外国人旅客への販売促進等の積極的な営業活動に努めましたが、特に上期に顕著にみられた国際線航空旅客数の減少や為替変動による訪日外国人旅客の購買力の低下等の影響により、売上は前年を下回りました。

その他の売上につきましては、新規の卸売先の拡充に努めましたが、卸売契約が一部終了したこと等により、売上は前年を大きく下回りました。

その結果、物品販売業の営業収益は701億5千6百万円(前期比11.3%減)、営業利益は59億7百万円(前期比19.7%減)となりました。



飲食業

飲食店舗につきましては、羽田空港国内線旅客ターミナルビルにおける新規フランチャイズ店舗の展開等売上増進に努めましたが、国内線航空旅客数の減少等により、売上は前年を下回りました。

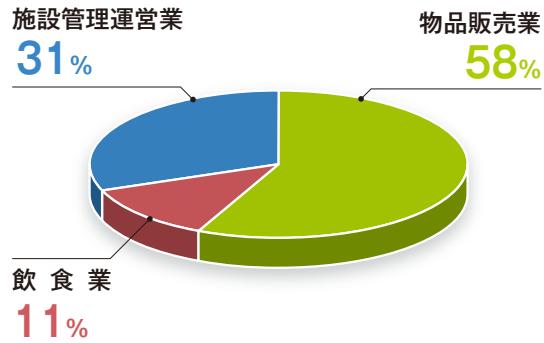
機内食につきましては、国際線航空旅客数は、下期以降、回復傾向に転じているものの、顧客航空会社が進めるコスト削減や機材の小型化、就航便数の減少等の影響を受け、売上は前年を下回りました。

その結果、飲食業の営業収益は158億1千万円(前期比7.2%減)、営業損益では、人件費や水道光熱費の削減および外注品の内製化等の各種コスト削減に努めましたが、5千6百万円の営業損失となりました。



本文内の事業別営業収益には、セグメント間の営業収益が含まれます。

第66期 営業収益比率



株主優待

Shareholder Special Benefit

羽田空港旅客ターミナルビル内物販・飲食店舗・エアポートラウンジおよび成田国際空港、関西国際空港等直営売店にてご利用いただけます。



ご所有株式数 **100株以上**
1,000株未満の場合

ご優待券 **1枚**
1,000円分

ご所有株式数 **1,000株以上**
10,000株未満の場合

ご優待券 **2枚**
2,000円分

ご所有株式数 **10,000株以上**の場合

ご優待券 **3枚**
3,000円分

株式情報

Stock Information

株式の状況

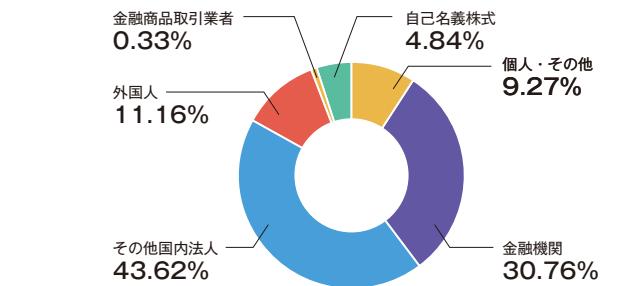
発行可能株式総数	288,000,000株
発行済株式の総数(うち自己株式 4,089,416株)	84,476,500株
株主数	5,694名

大株主

株主名	当社への出資状況	
	持株数(千株)	出資比率(%)
株式会社日本航空インターナショナル	4,398	5.47
全日本空輸株式会社	4,398	5.47
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (住友信託銀行再信託分・ 京浜急行電鉄株式会社退職給付信託口)	3,484	4.33
株式会社三菱東京UFJ銀行	3,408	4.23
三菱地所株式会社	3,111	3.87
株式会社みずほコーポレート銀行	3,000	3.73
大成建設株式会社	2,831	3.52
日本通運株式会社	2,337	2.90
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,324	2.89
東京海上日動火災保険株式会社	2,071	2.57

(注) 出資比率は自己株式(4,089,416株)を控除して計算しております。

所有者別株式数分布



Corporate Data

会社概要

- 商号 日本空港ビルディング株式会社
Japan Airport Terminal Co., Ltd.
- 設立 1953年7月20日
- 資本金 174億8,920万円(東証一部上場)
- 事業内容 (1) 羽田空港旅客ターミナルビルの建設、管理運営
①航空旅客ターミナル施設、見学送迎施設等の建設、管理
②航空運送事業者および空港構内業者に対する事務室、店舗、作業場等の賃貸
- (2) 物品販売業務
①羽田空港旅客ターミナルビルにおける物品販売業務
②成田国際空港旅客ターミナルビルにおける物品販売業務
③関西国際空港旅客ターミナルビルにおける物品販売業務
- (3) その他のサービス業務
①羽田空港利用者に対する案内業務、駐車場、旅行傷害保険代理業、ホテルあっせん等のサービスの提供
②成田国際空港利用者に対する旅行傷害保険代理業、ホテルあっせん等のサービスの提供

本社および営業所等

- 本社 東京都大田区羽田空港三丁目3番2号
(東京国際空港内)
- 東京事務所 東京都千代田区大手町二丁目6番2号
日本ビル10階
- 成田営業所 千葉県成田市古込字込前164番地
(成田国際空港内)
- 大阪営業所 大阪府泉南郡田尻町泉州空港中1番地
(関西国際空港内)
- 中部営業所 愛知県常滑市栄町一丁目124番地

役員

- 取締役会長 門脇 邦彦
- 代表取締役社長執行役員 鷹城 勲
- 代表取締役副社長執行役員 土井 勝二
- 代表取締役副社長執行役員 櫻井 正志
- 専務取締役執行役員 山本 兵一
- 専務取締役執行役員 石黒 正吉
- 常務取締役執行役員 安藤 隆
- 常務取締役執行役員 横田 信秋
- 常務取締役執行役員 高橋 篤郎
- 常務取締役執行役員 中岡 進
- 取締役 高木 丈太郎
- 取締役 小谷 昌
- 取締役 戸矢 博道
- 取締役 田口 久雄
- 取締役 霜田 明彦
- 常勤監査役 眞貝 和夫
- 常勤監査役 森田 一夫
- 監査役 赤井 文彌
- 監査役 樋口 公啓
- 監査役 大鷲 雅一
- 常務執行役員 田中 一禎
- 常務執行役員 中村 元一
- 執行役員 岩松 孝昭
- 執行役員 岡本 保弘
- 執行役員 森岡 洋一
- 執行役員 古賀 幸
- 執行役員 宮内 公
- 執行役員 後藤 久
- 執行役員 松本 真澄
- 執行役員 河合 誠



1953年、当社は羽田空港の旅客ターミナルビルの建設・管理運営を目的として設立されました。

現在、当社グループは、施設管理運営業のほか、免税店などの物品販売業、空港内レストランや機内食製造・販売などの飲食業を展開しております。

CS理念

「訪れる人に安らぎを、去り行く人にしあわせを」のもと、すべてのお客様にご満足いただけるよう、サービスの向上に取り組んでいます。

基本理念

公共性と企業性の調和

経営方針

- 旅客ターミナルビルにおける絶対安全の確立
- お客様本位(利便性・快適性・機能性)の旅客ターミナルビル運営
- 安定的かつ効率的な旅客ターミナルビル運営
- 企業体質の強化およびグループ企業の総合力向上

日本空港ビルディング(株)

